


～男女共同参画であなたもわたしもハッピーに～

ウィズレター

市川市男女共同参画センター **ウィズ** 

発行 市川市 総務部 男女共同参画課

市川市市川 1-24-2 電話 047-322-6700

2019年
2月
31号

男女共同参画センター（愛称 ウィズ）は、性別にかかわらず対等な立場であらゆる活動に参画し、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会の実現を目指すための拠点施設です。愛称の“ウィズ”は、男女ともに、老いも若きもともにという意味が込められています。

こんにちは。男女共同参画課です。今回は「LGBT」に関する特集です。

「多様な性」についての講座を開催しました

◆セクシュアリティって何？ 4つの要素で考えてみましょう

性自認	自分で自身の性別をどのように認識しているかを表す
からだの性	外性器・内性器・性腺・性染色体の状態や、性ホルモンのレベルなどから定められる
好きになる性	恋愛や性愛の対象となる性を表す
表現する性	服装や行動、振る舞いに「どのような性らしさが含まれるか」との社会的構築物を表す

性自認 × **からだの性** × **好きになる性** × **表現する性** = セクシュアリティ(性のあり方)

セクシュアリティはグラデーションで存在し、「人の数=性のあり方」なのです。一部の人だけが違うのではなく、一人ひとりそれぞれのセクシュアリティがあり、その人のセクシュアリティを決めるのはその人だけです。セクシュアリティは性や恋愛の話だけではなく、進路、就職、パートナー、老後など、誰と生きるか、どう生きるか、というその人の人生設計に深く関わるアイデンティティの一部です。

◆セクシュアルマイノリティ(性的少数者)とは？

LGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った単語)と表現されることもあります。日本国内のLGBTの人口比率は5～8%(約13～20人に1人)と言われており、それは左利きやAB型、日本に多い苗字の上位(佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さん)とほぼ同様の割合です。皆さんの近くにもいらっしゃると思います。ですが、セクシュアリティについては見た目で判断ができないため、「会ったことがない」「いない」になってしまうのです。本当は「見えない」「見ていない」だけなのですが…。目に見える違いはその人を構成する一部分に過ぎません。

◆今日からなれます、あなたも「アライ」であってください

LGBTに関しては、きちんとした教育を受ける機会がなく、知識もあいまいな中、当事者の方々は日々、様々な困難や、無意識の偏見、差別に直面し、生きづらさを感じています。当事者でなくとも、皆さんにはぜひ、「アライ(理解者・味方)」であっていただきたいと思います。Alliance(同盟)がその語源となっており、
・LGBTを笑いのネタにしない
・誰もが結婚、子育てをすることを前提にしない
・「パートナー」という言葉を使う(旦那さん、奥さん、彼氏、彼女など性別を決め付ける表現をしない)
・レインボーグッズ、レインボーカラーを取り入れる 等、日常のちょっとした行動、ささいな気遣いで良いのです。セクシュアリティに限らず、見えない違いとしての「多様性」を、まず、想像してみるところから始めてみませんか。すべての人にとって、生きやすい世の中を作っていきましょう。

LGBTとエンターテインメント

最近では身近なテレビ番組の題材やテーマとなることもあり、テレビドラマ「おっさんずラブ」などは、ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。個人的な意見ですが、このドラマが画期的であったところは、セクシュアルマイノリティを仰々しく扱うのではなく、どこにでもある日常として淡々と描いていたところにあったと思います。また、現在も依然人気上映中である「ボヘミアン・ラブソディ」では、フレディー・マーキュリー氏のセクシュアリティに触れており、それはストーリーのほんの一部に過ぎませんが、映画の主要な軸にもなっています。多様性の時代、エンターテインメントを通じてLGBTに触れる機会が増えてきた昨今ですが、いまいちご自身の日常とはリンクしない、ピンと来ない、という方へ、LGBTへの理解を深める導入となりそうな映画を、いくつかご紹介したいと思います。

おすすめLGBT映画

君の名前で僕を呼んで



1983年夏、北イタリアの避暑地で両親と夏を過ごす17歳のエリオは、大学教授の父がアシスタントとして招いた24歳の大学院生オリヴァーと出会う。エリオは自信と知性に満ちたオリヴァーをはじめ嫌厭するものの、徐々に彼に対し抑えることのできない感情に駆られていく。そんな2人に与えられたたった6週間の、眩しすぎて短すぎるひと夏を描く。北イタリアの美しい風景、美しい音楽、美しい主演のふたりにも注目。

キャロル

1950年代のニューヨーク。写真家を夢見ながらデパートで働くテレーズは、クリスマスを目前に賑わう玩具売り場でキャロルという人妻と出会い、その美しさに一瞬で心を奪われる。キャロルもまた若く純粋なテレーズに惹かれ、ふたりの仲は急速に縮まっていく。同性同士の恋愛はタブーであった当時、また、そうでなくとも女性の生きづらかった時代、テレーズとの出会いでキャロルが至った信念は「心に従って生きなければ人生は無意味」。それを実践することがいかに困難を伴ったか。「あなたは本当の自分を生きていますか」と、時代を超えて訴えかけてくる作品。



リリーのすべて



1926年デンマーク。画家のゲルダは同じく画家の夫、アイナーと暮らしていた。ある日、ゲルダの絵のモデルが来られず、アイナーを着飾り脚部のモデルを頼む。美しいアイナーを冗談で女装させ、「リリー」という女性としてパーティーに連れて行く。それはアイナーが自身のセクシュアリティに目覚めるきっかけとなるのであった。アイナーはリリーとして過ごす時間が増えていき、複数の医師の診断を受けては「精神疾患」という扱いを受ける中、「それは病気ではない」という医師が現れる。この医師はアイナーに先例のない性別適合手術の存在を告げ、アイナーは手術を受けることを決断する。世界初の性別適合手術を受けた実在の画家とその妻との愛を描いた作品。

今回の記事はいかがでしたか？LGBTを「ドラマや映画の中の話」として捉えるのではなく、ご紹介した中には実際の出来事、人物に基づいた作品があることに注目してください。エンターテインメントの世界だけではなく、多様なセクシュアリティを持つ方が実在しているのです。「自分の周りにLGBTはいない、見たことがない」のではなく、あなたのすぐ近くにいる人が自身のセクシュアリティを明かしていないだけかもしれません。また、「LGBTがいても構わない」のではなく、LGBTはあなたの「いても良い」という許可に関わらず存在しており、また、許可を受ける必要もないのです。2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催が目前に迫りました。セクシュアリティに関わらず、国籍、言語、宗教、文化、ハンディキャップ等、多様なアイデンティティを持つ人々が世界中から集まります。その時、ホスト国の一員としてどのような歓迎ができますか？幅広い知識と、奥行きのある理解を持って対応することができるのでしょうか？今回の記事が、多様性への気づきを得ていただくきっかけとなれば幸いです。